

令和5年度第1回徳島市立考古資料館協議会抄録

- I 日 時 令和5年8月8日(火) 13時30分～15時
- II 場 所 徳島市立考古資料館 研修室
- III 出席者 協 議 会 中村会長・須藤副会長・菅原委員・杉本委員・板東委員・
宮内委員・湯浅委員
教育委員会 松本教育長・岡田課長・井出課長補佐・吉岡管理係長・
堤主査・西本主査・板東主事
考古資料館 北島館長・倉佐事務長・村田主任学芸員

IV 内 容

1 市民憲章唱和

2 あいさつ(松本教育長)

3 自己紹介

4 会長、副会長選任

互選により、中村委員が会長に、須藤委員が副会長に選出されました。

5 新会長・副会長あいさつ(中村会長・須藤副会長)

6 議題

(1) 令和5年度 徳島市立考古資料館事業計画(資料1)

(2) 令和5年度 徳島市立考古資料館主要事業概要報告(資料2)

(令和5年4月1日から令和5年7月31日まで)

(3) その他

V 主なご意見

令和5年度徳島市立考古資料館事業計画等に関して、各委員より様々なご意見をいただきました。主な内容は次のようなものでした。

(◇=委員のご意見 ◎=考古資料館・社会教育課の回答)

◇ 会議の度に事業計画、事業報告をされていますが、展示活動はともかく、資料収集や保存作業、他団体との連携、博物館実習生などの活動について実績とそれに対する課題点などが、報告からは見えてこないのですが、課題があるとすればどのようなものでしょうか。

◎ 収集業務については本年度昨年度ともに実績はありませんでした。ただ自宅にある資料を見てほしいといった話は何件もあり、そういった折には資料を持って余すようなら資料館で預かる旨を伝えております。保存業務については収蔵資料の写真撮影は済み、さらにデータベース化を進めている途中です。企画展示等の準備作業などの合間に作業を行っているため、いつまでにデータベース化が終了するとは確約できませんが、なるべく早くに終わりたいと考えています。他団体との連携については、資料館で徳島市の学校長会などが行われた場合、事業案内パンフレットなどの参加者への配布をお願いしたり、社会教育課に協力してもらったりして学校関連事業開催時に広報していただいています。営業活動としての学校訪問についてはコロナ感染症予防のため控えているのが現状です。出前授業については感染症対策の緩

和のためか、昨年度に比べ増えてきています。バス助成の利用については学校側への広報は行っていますが、ここ数年を見ても低調な状況です。地域との位置付けの広域化についてですが、うまく機能していないのが正直なところですが、今年度の特別企画展で阿波国分寺とともに国分尼寺を取り上げることで、石井町の文化財もしっかり紹介していきたいと考えています。大学、博物館との連携についてですが、資料貸借などスムーズに行えるよう努めております。地域との連携についてですが、一宮城跡保勝会の方がグッズ制作をすることによって資料館が機材提供で協力しています。街角博物館は他館の活動が停滞しており、連携は図れてはいません。博物館協議会は四国、徳島県ともに会合がある際にはできるだけ学芸員のどちらかが出席するようにしています。四国ミュージアム研究会についても3月に久しぶりに会が再開し、参加しました。各種団体との連携促進強化としまして、ウォーキング団体などが気延山など資料館近辺を散策する際に資料館展示見学を前提に駐車場や前庭の利用などを認めています。

- ◇ 今挙げていただいた報告で問題点や課題があるのか、もし問題がないのであれば、協議会で議題として討議する必要もないので、資料館側が課題と認識している点を示してもらえればと思います。
- ◇ 博物館協議会との連携で資料館学芸員が講演を受けたり、また資料館が協議会場として利用されたりするなど、着実に実績が積み重ねられているのは大事なことだと思います。
- ◇ 協議会は指定管理者として受けているのか、資料館として公的に受けているのかどちらでしょう。
- ◎ 資料館として公的に受けています。
- ◇ 博物館協議会のメンバーとして公的立場で加入しているところと運営者として入っているところと両方あるので、少し複雑な面があります。
- ◇ 資料館の事業活動を見ていると公的立場と運営者の立場が混在していて区別ができていないと感じます。
- ◇ 先に挙げられた資料収集はまさに公的立場と運営者としての立場を分けてあたる必要のある事業ですね。運営者が自己判断で収集の可否を決めて良い事業ではないと思います。
- ◇ 学校教育との連携ですがこの3年間コロナ感染症のため、ほとんど外部からの働き掛けがあっても応えることができませんでした。これから徐々に通常に回復していくと思いますので、資料館利用についても前向きに考えたいと思います。
- ◇ 中学生が資料館に足を向けるには魅力的な企画が必要であると考えます。国府中学校なら近場なので比較的簡単に来ることができますが、他校は距離的な問題も大きくまた、私が以前赴任していた学校には隣接した場所に文化施設があったのですが、授業等に関係しないと近場であっても訪れることがないのが現状です。中学生を呼び込む熱量のある企画であれば自主的に訪れる生徒もいるとは思いますが、企画内容が授業内容等に関連し、バス助成などの補助があれば学外授業として取り入れることもできるのではと思います。また出前授業についての質問ですが、対象は社会科関連が主となるのでしょうか。
- ◎ 出前授業ですが社会科の授業の一環として呼ばれることがほとんどです。ただ以前訪れた小学校では美術クラブの課外活動として呼ばれたことがあり、石を削り、

磨いて形を整える図工作業として「勾玉づくり」を指導しました。また勾玉をつくるだけで授業の一コマをつぶすのは惜しいという先生もいます。そこで図工と社会もコラボといった形で「勾玉づくり」というプログラムを考えていただいても良いのではと考えています。どうしても社会科でなければという先入観は学校側にも資料館側にもありますので、そういった枠を取り払う、また小学校3～4年生の総合学習の時間枠を利用するなど出前授業利用の拡大が望めるのではないかと考えています。

- ◇ 学校教育の現状はよく分からないのですが、資料館の設置目的の一つとして市内小中学校へ開かれた施設づくりがあると思います。資料館が行う出前授業とかの作業的な面を指定管理者が行うのは分かるのですが、学校教育全般への対応もすべて指定管理者に委任しているということでしょうか。先にも話しましたが、指定管理者と教育委員会の資料館活動の役割分担が整理されないまま現在まで来ている感じを受けます。
- ◎ 指定管理者と教育委員会との間で結ばれた基本協定書に従って互いに事業活動を行っていますが、実際には自主的な判断で行動することもあります。
- ◇ 徳島県埋蔵文化財センターも指定管理制度を取り入れているのですが、埋蔵文化財センターでは役割分担は明確でコアな部分、学校教育に係るような事については教育委員会が担い、指定管理者は実務的な面だけを担うようにしています。役割を明確にすることで指定管理者の負担を軽くできるのではないのでしょうか。
- ◇ 県と市では指定管理制度の運用の仕方に違いがあってしかるべきだとは思いますが、問題が生じるようならば相互に補えるよう話し合っただけで役割分担を進めていただければと思います。また四国博物館協議会等の参加や施設の会場使用など、公的業務かどうかグレーの部分はそれこそ話し合いで決めれば良いのではないのでしょうか。
- ◇ 地域との連携強化についてですが、地域の婦人会で児童館や学童保育に携わっていて感じるのですが、現在夏休みの関係もあって利用児童が多く、大変にぎわっています。イベントやカリキュラムを考えるのも大変で、以資料館のイベント案内をいただいたので職員に資料館利用を伝えたこともありました。資料館側も積極的に児童館や学童施設に広報していただければ、出前授業等の資料館利用増につながるのではないのでしょうか。
- ◎ 地域のコミュニティセンターや放課後デイサービス、発達障がいを持つ児童専門のデイサービスなどの方からは出前授業や来館しての勾玉づくりなど体験学習を利用していただいています。
- ◇ 地域の児童館や学童施設はとくに夏休み、冬休みは児童生徒がとても多く利用していますので、出前授業等を積極的に行うことで児童生徒への資料館の知名度の向上、資料館利用の潜在的需要につながるように思います。
- ◎ 確かに地域のコミュニティセンターや放課後デイサービスなどでの体験学習後、数日してから家族、友人同士で来館していただけることも多いです。「勾玉づくり」「火おこし体験」は事前申し込みをいただければ、どなたでも体験できることを、訪問先で伝えていて、実際効果はあると実感しています。
- ◇ 婦人会で児童館や学童施設の子供たちを連れて市立図書館へ行くこともあり、子供たちにも大変好評ではあるのですが、どうしても人数に限られますし、親御さんたちは忙しく、そういった機会をつくるのも難しいそうです。そういった子供たち

のためにも出前授業や資料館のイベント利用の告知を広くお願いします。

- ◇ 年度途中の今後の事業計画とこれまでの事業進行状況報告だと重なる部分があって判然としないため、紙資料に整理番号を打つなど資料整理をしていただければ会議進行がスムーズになるかと思えます。
- ◇ 年度末に行う報告であれば事業終了報告だけで良いのですが、年2回の会議方式だとどうしても途中報告は煩雑になりがちですね。またいただいた資料にはある事業について「報告事項なし」とあっても、先ほどの学芸員と委員の質疑では報告があるなど、ちぐはぐな印象を受けます。それと先の委員の意見にあったようにこれまでに協議会上で出てきた課題や資料館側が捉えている問題点、反省点を記載していただければ、事業内容の仕分けにもつながり、効率的な資料館運営ができるのではないのでしょうか。
- ◇ 事業報告についてですが、例年同様のイベント企画が行われていますが、参加人数的に振るわない企画も散見されます。こういった企画にもそれなりのマンパワーが割かれていると思うのですが、数年続けても期待値に届かない企画は見直す必要があるのではないのでしょうか。これまでの事業報告を見ていると事業計画を立ててもノルマをこなすので手一杯といった印象を受けます。事情はあるとは思いますが費用対効果も考えるべきではないのでしょうか。
- ◇ 重点課題の常設展示図録の作成についてですが、進捗の状況とページ数、頒布方法について、図録内容のインターネット上での公開の有無、そしてどの年齢層向けに内容を構成するのかを教えてください。
- ◎ 進捗状況については教育委員会の文化財係と協議を進めていて、中世までの大まかな構成までは出来ています。ここからキャプション等の表現の統一、写真図版の選定など調整を行っていて、ページ数は約40ページになります。頒布方法は基本有償頒布で市内学校、図書館には無償で頒布、公民館などにも無償頒布できればと考えていますが、関係間で調整したいと思えます。インターネットでの公開については資料館ホームページのあるサーバーは現在指定管理者のシルバー人材センターが契約していて、今後指定管理者が他に移った場合に調整が複雑になると思われるので現在は考えていません。内容については考古学に興味のある中学生なら分かる程度の表現で構成しています。
- ◇ 考古学の用語は特殊なため、読むのは歴史畑の人でも少し難しく感じるようですが。
- ◎ 文化財係との編集会議上でも考古学用語にルビを打つべきかどうか意見が分かれています。ある程度編集が進んだ段階で資料館ボランティアに読んでいただいて意見を聞こうと考えています。ボランティアの中には小学校の先生だった方もいますので、参考になるかと思えます。
- ◇ 常設展図録は一度出版するとしばらくは改訂できないと思うので十分練って発刊してほしいと思えます。対象年齢については考古資料館のイベントなどの企画を見て思うのですが、比較的小学生などの低年齢層を意識した企画が多いように見受けられます。子供を呼び込み、ジュニア学芸員養成など次世代への継承を考えるなら子供向けの読み物も必要ではないのでしょうか。だからと言って図録を子供向けにしまうと今度は大人が読むには適さなくなるので、いろいろ問題があるかもしれませんが子供向けの読み物を別に発刊できれば、資料館来館者に配布するだけでな

く、学童や児童館、小学校に配布することで、ジュニアたちのすそ野を広げる事につながると思います。子供向けの平易なものが発刊できるのなら、常設展図録は大人向けに振れるのではないのでしょうか。ルビは多いと煩瑣な印象を受けますし、考古用語は読めたところで解説がなければ不明なものも多いので、いっそルビ無しでも良いかと思います。

- ◇ 博物館の刊行物は難易度A B Cの三種に分けられることが多く、Aは特別企画展図録などの上級向けで、引用個所に出典が記載されているなど専門資料として使えるもの、Bは博物館の顔ともいえる常設展図録で大人向けではあるが専門性が強すぎないもの、Cは平易な児童向けとなっていることが多いようです。他の博物館の常設展図録も難しくはないけど易しくも無い塩梅です。
- ◇ 展示解説文を以前作ったときは中学生の生徒に音読してもらい、詰まった個所にルビを振っていました。図録の対象を中学生以上とするならそういった工夫も有効ではないのでしょうか。